

内容	・ 2019 年度年次大会・講演会・交流会	1
	支部長挨拶、来賓挨拶	1、2、3
	2018 年度活動報告、2019 年度活動計画	3、4
	講演会・交流会開催	5、6
	・ 2018 年度技術士合格者祝賀会・講演会、茨城県支部新役員紹介	6

2019 年度年次大会・講演会・交流会

2019 年 7 月 27 日(土)13 時 30 分より、ひたちなか市ワークプラザ勝田において、茨城県支部の第 8 回年次大会・講演会・交流会が多数の来賓のご出席をいただき開催された。

支部長挨拶

茨城県支部 支部長 高橋 正衛

本日は休日で、台風 6 号が接近する天候にも拘わらず、多数のご来賓及び会員の皆様にご参加いただきまして、大変にありがとうございます。

私は本田支部長の後を受けて、今年 7 月から新支部長を仰せつかりました高橋正衛と申します。何分経験が不足し未熟ではありますがよろしく願いいたします。

簡単に自己紹介させていただきますと、1976 年に日立製作所 大みか工場（現在の制御プラットフォーム統括本部 大みか事業所）に入社し、40 年以上に亘って、火力発電所の制御システムや制御装置の設計を担当いたしました。又、会社生活を終える前の数年間は MHP S（三菱日立パワーシステムズ）において火力発電所制御システムの保守サービスを担当いたしました。



高橋 支部長

さて、新支部長としての抱負を述べる前に、SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)について簡単に触れさせていただきます。

SDGs は 2015 年の国連サミットで採択された 17 のゴールと 169 のターゲットをもつ 2030 年までの国際目標です。我が国におきましては、2016 年に総理大臣を本部長とする推進本部が設立され、2018 年 12 月に 3 つの柱からなるアクションプラン 2019 が決定されております。この内の一つが SDGs と Society5.0 で、SDGs 達成のための科学技術イノベーションとしてロードマップや基本的な考え方を策定する計画となっております。

このような政府の動きを受けて、日本技術士会も具体的な活動を進めており、その概要が技術士 (IPEJ Journal 2019 No.7) に紹介されております。例えば、機械部門では「持続可能な水素社会実現」、建設部門では「インフラ老朽化対策、防災を意識した地域復興まちづくり」、農業部門では「農村地域の生物多様性への取組」、森林部門では「持続的な森林管理」、情報工学部門では「ICT イノベーション」、男女共同参画推進協議会では「女性技術者育成支援」等が主要な取り組みとして挙げられております。

新支部長としましては、このような日本技術士会の SDGs への取組を茨城県支部の活動に取り込み、SDGs の目的である「持続可能な社会の実現」に少しでも貢献できればと考えております。具体的には講演会や CPD 講座テーマへの反映、理科教育支援活動拡大、IoT 推進支援活動や防災支援活動強化などであります。更に、県内の若い技術士や女性技術士の自主的な活動を強力に支え、当会活動の活性化に繋げて参りたいと思います。

さて、本日は岡井芳樹様から「茨城県における森林・林業・木材産業の現状と課題」、池田駿介様から「水・土砂災害適応策と技術士への期待」と題してご講演をいただきますが、SDGs の目的に沿った時宜を得た内容であり、ご期待いただきたいと思います。

最後になりましたが、7 年以上に亘り、茨城県支部の支部長として当支部の活動を支えていただきました本田様に感謝申し上げ、新支部長の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶

茨城県産業戦略部技術振興局技術革新課技佐 磯 智昭 氏

技術士会には、第 17 回世界湖沼会議への支援、県民大学講座、茨城県グリーンフェスティバルや青少年のための科学の祭典、茨城県 IoT 推進ラボ活動の推進など本県の活動に支援協力をいただきました。

今、県内中小企業を取り巻く経営環境は急激に変化しています。県では新ビジネス創出による中小企業の競争力を図るため次世代技術活用ビジネスイノベーション創出事業を本年度から実施しています。

今年 3 月に、県産業技術イノベーションセンターにコワーキングスペースを新設し環境整備を始めました。次に IoT、AI の知識習得とデータの分析活用のセミナーを行います。アイデア創出やビジネス構築の手法のセミナーを行い、アイデアを作りプランの構築までをサポートいたします。今後とも新しい茨城を作るため果敢に挑戦する企業の皆様を積極的に応援してまいります。技術士の皆様にもご指導とご協力を頂けるようお願いいたします。



挨拶される磯 智昭 氏

来賓挨拶

ひたちなか市長 大谷 明 氏

ひたちなか市の産業振興への格別なるご理解とご協力に感謝いたします。今年度も、産業交流フェアでの青少年の科学の祭典にて科学実験を行っていただき、子供たちが物作りの楽しさに触れてもらいたくご協力をお願いします。

本市でも様々な産業振興を行っています。新製品等の開発や技能訓練などの様々な事業に対する補助、産業コーディネーターによる中小企業に対する支援・ビジネスマッチング、新たに移住定住交流推進事業として都内在住の学生を対象にひたちなか市の企業を知り、交流し、定住につなげる取組を始めました。

若人が、キラキラと仕事をしている姿を市報で紹介する取組みも行っています。

ひたちなか市は職場住居近接の街作りを進めます。農業、漁業、物づくり、それに観光が中心です。物づくりが次の世代に引き継がれて、地域に根付かせてこの地域の力にしたいと思いを。さらなるご支援、次世代人材の育成等に力を賜りますようお願いいたします。



挨拶される大谷 明 氏

来賓挨拶

茨城県中小企業団体中央会専務理事 岩間 伸博 氏

日頃から、熱心に奮闘され地域の振興に注力いただき感謝いたします。また、中央会が事務局を務めております「ものづくり補助金事業」に関しては、その技術的内容等について審査を行っていただきありがとうございます。

平成 30 年度補正予算のものづくり商業サービス生産性向上促進補助金事業につきましては、全部で 206 件が採択されました。この件数は全国の中でも多い方の部類に入ります。本県はものづくり産業の発展が著しい県です。様々な施策を活用しながら、本県のものづくり産業や中小企業の振興を図ってゆきたいと思いを。今後も科学技術の発展、地域産業振興への貢献をお願いいたします。



挨拶される岩間 伸博 氏

来賓挨拶

(公財) 日立地区産業支援センター長 菊野 洋二 氏

前任の大原から引き継ぎ、7 月に就任しました。

1999 年 4 月にセンターを開所し活動してきており、今年で創立 20 周年を迎えます。この 20 年の活動を技術士会は安定的に支えてくださいました。厚くお礼申し上げます。

当センターの目的は、県北地域のものづくりを中心とした中小企業のサポートです。先進的な取組みをしている企業と、そうでない企業の差が大きいのが実情です。

当センターとしては意識啓発、事業資産の連携の取組み、人材研修の取組みなどを進めていますが、IoT を中心とする、科学技術的アプローチが大切であり、茨城県支部の皆様にも今後ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



挨拶される菊野 洋二 氏

来賓挨拶

茨城工業高等専門学校副校長 市毛 勝正 氏

茨城高専では、中学校卒業から5年間の本科課程と2年間の専攻科課程より構成されています。その中で社会変化に応じた、グローバル化対応や地域連携を進めています。特に企業マインドの養成のための企業訪問や、グローバルエンジニアの育成に注力しています。地域への貢献を図ろうと思っておりますので、皆様のご来訪をお待ちいたします。本日はおめでとうございます。



挨拶される市毛 勝正 氏

2018 年度活動報告、2019 年度活動計画

年次大会では、高橋支部長より2018年度の事業報告及び2019年度の事業計画が報告された。

1. 2018 年度事業報告

(1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ① 茨城県支部会員が参加して年次大会を開催した（6月23日）。また、支部役員会を毎月開催した。
- ② 総務委員会では、支部役員会や年次大会の開催事務、支部会計等の事務局活動を行った。
- ③ 広報委員会では、行事案内、活動状況報告などを支部ホームページに掲載した。支部会報を作成しホームページに掲載した。支部パンフレットを改定し、関係機関に配布した。
- ④ 業務・地域貢献委員会では以下の活動を行った。
 - ・理科教育支援小委員会を中心に「霞ヶ浦環境科学センター夏祭り」（8月25日）、「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」（11月3日～4日）に出展した。また、茨城県生涯学習センターの「おもしろ理科先生派遣事業」に理科講座を登録し、県内の小学校、図書館、科学館等の要請により理科支援を行った。
 - ・IoT 推進支援プロジェクトでは「茨城県 IoT 推進 ラボ」の構成機関として、ラボの役員会議・担当者会議への出席ほか、他支援構成機関と連携した啓発活動、情報共有を行った。
- ⑤ 研修委員会では、継続的に CPD 行事を開催するとともに、修習技術者支援小委員会で、修習技術者交流会を開催するなど、修習技術者への支援を行った。
- ⑥ 県南委員会は、各委員会と連携をとりながら県南地域密着形の活動を行った。県南地域の小学校、文教施設からの要請を受け、科学実験教室に講師を派遣した。



報告する高橋 支部長

(2) 行事

- ① 「技術士一次・二次試験平成30年度合格者祝賀会・講演会」（4月7日）を開催した。
- ② 年次大会での「講演会・交流会」（6月23日）を開催した。
- ③ 「新年講演会・交流会」（1月26日）を開催した。
- ④ 「技術士 CPD 講座」を4回開催した。また見学会を1回開催した。
- ⑤ 「修習技術者交流会」を3回開催した。
- ⑥ 平成30年10月に開催した世界湖沼会議を積極的に支援するために、「世界湖沼会議プロジェクト」を設置し、茨城県等の関係機関と連携して対応した。
- ⑦ 「オープンテクノフォーラムいばらき2018」（12月22日）を開催した。また「いばらき IoT コ・ラボ勉強会」を3回開催した。

(3) その他

- ① 茨城県鹿行生涯学習センターが開設した県民大学講座において、「日本一の技術士たちが語る～世界に誇る茨城の技術～」をテーマとした5回連続講座に講師を派遣した。
- ② 茨城県県南生涯学習センターが開設している県民大学講座において、「日本一の技術士たちが語る～日本が誇る次世代エネルギー技術～」をテーマとした10回連続講座及び「IoT 入門～これからの社会の仕組みを学ぶ～」をテーマとした5回連続講座に講師を派遣した。
- ③ 茨城大学工学部(JABEE 認定)の要請で「技術士活動紹介」(12月22日)を行った。

2. 2019年度事業計画

茨城県支部は統括本部の事業計画に沿って、地域的な会員活動を一層活発化するよう取り組んでいる。会員技術士の力を結集し、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、国、県、各市町村、関連諸機関、県内企業・団体および県民に対する科学技術の向上と県民経済の発展に寄与してきた。

令和元年度は、これまでの実績を踏まえ、それぞれの活動の幅を広げるとともに、ひとつひとつの成果が結実するよう取り組む。主要なテーマは次のとおりである。

(1) 技術士および技術者の倫理の啓発

「技術士倫理綱領」の理念・主旨を会員技術士へ浸透させるため、講演会、展示会などの機会を捉え技術者倫理の啓発に努める。

(2) 技術士の資質向上

技術士法では、技術士の資質の向上を責務としている。このため、日本技術士会は資格取得後の継続的研鑽(CPD)を基本事業の一つとし、現在、技術士制度改革の検討を進めている。茨城県支部ではこのような状況を踏まえ、資格取得後の技術士の更なる資質向上を図るとともに、当支部活動の一般への開放を進め地域密着を高めていく。

(3) 技術士制度の普及・啓発

技術士制度の普及・啓発のために、県及び関連機関、団体などへの技術士の活用促進を働きかけるとともに、技術士制度に関する広報活動を行う。また、開催する講演会などを公開し、技術士制度の普及を図る。

(4) 技術士業務の開発及び活用促進

技術士としての業務の範囲拡大・普及を目的に、県及び関連機関、団体などへの働きかけを図るとともに地域密着を高めてゆく。

(5) 技術系人材の育成

技術士資格取得に向けた修習技術者(技術士第一次試験合格者及びJABEE認定課程修了者)の修習活動を支援する事業の検討や、大学などの教育機関に対する技術士活動紹介など技術士制度の普及啓発を図る。

(6) 地域社会貢献活動

技術士としての専門技術を生かし、地域社会や青少年に向けた科学技術に関するコミュニケーションの促進を行うなど、「科学技術基本計画」(平成28年閣議決定)の主旨に沿った活動を推進する。

また、地域社会における多種多様な技術的課題に対し、県及び関連機関と連携し、その地域に即した支援活動を推進する。

(7) 情報発信・連携の強化

会員並びに地域社会に向けた情報発信は茨城県支部の活動にとって重要であるため、タイムリーな情報発信とその内容の充実を図る。更に、日本技術士会の各組織・部会等との連携を強化し、茨城県支部の技術士会活動の一層の充実・向上を図る。

(8) 組織運営の強化

茨城県支部組織の充実と円滑な運営を図る。

講演会 年次大会に引き続き、講演会が実施された。

◆ **講演 1** 「茨城県における森林・林業・木材産業の現状と課題」

農林水産省林野庁茨城森林管理署長、技術士（森林） 岡井 芳樹 氏

世界における森林率が約3割である中で、我が国はフィンランドやスウェーデンと並ぶ、国土の約7割が森林である希少な国である。茨城県は森林率こそ低いながら75%が人工林のために上質で、北海道の道東レベルの生産性を持っている。また、林業における技術連携が取りやすい土地柄で、成長発展のポテンシャルが高い地域である。

森林には有形無形の価値があり、貨幣で評価すると70兆円に相当する。土砂の流出を抑制する国土保全機能は特に重要だが近年土砂流出による災害が多発している。これは台風のコースが変化してきたことや、局地的な豪雨の発生による。これらの気象を前提とすると、これまで以上に森林の整備が必要となるところが増えてくる。整備コストを森林資源で賄える、自己完結した森林へと作り替えていく必要がある。

森林資源の財源化のための林業生産を見ると、1970年代以降の木材単価は下降の一途であり、稼げないために事業者が木を切らない。木を切らないため苗が埋められず、森林の代謝が阻害されている。木材単価や資金化効率を向上させる方法として、①木材のブランド化：茨城県北では八溝杉というブランド木材が取れ、比較的高価で売ることができる。②森林開発や事業の合理化：森林の所有者や境界が不明、運搬車両が通れないなど、林業がしにくい状況を改善する。③自給率の改善：各方面の取り組みにより、2002年の自給率18.8%を底に、2017年には36.2%まで回復。国の目標としては50%を掲げる。④高付加価値化：ICTを利用した一気通貫のサプライチェーン構築。ハウスメーカーや工務店のニーズを直接現場に届け、どんな木をどう切ったら高く売れるかを見出す。木材の機能向上も進んでおり、現在は14階の高層建造物を作ることができる。

我が国古来の苗を植える風習から話が始まり、「人を育てる」取り組みや、森林という、短期間では成果が見えにくい「遺すべきもの」に対する、貴重な足跡についてお話頂いた。



講演される岡井 芳樹 氏

◆ **講演 2** 「水・土砂災害適応策と技術士への期待」

(株) 建築技術研究所研究顧問、東京工業大学名誉教授 池田 駿介 氏

この講演では、次の二つのことを私たち技術士に伝えていた。

- 1) 最近の豪雨災害状況を顧みて「社会技術」の重要性について
- 2) 技術士がこの技術に興味を持ち、より広く社会貢献することへの期待

（「社会技術」は多様で幅広い関係者の対話や協働を通して社会と技術の関係を俯瞰し、社会問題の解決に資する技術のことである：引用元 フリー百科事典『Wikipedia』）

平成29年「九州北部豪雨災害」と平成30年「西日本豪雨災害」の被害の状況やそれに至った要因を概観し、更に具体的数値を使って以下の要因を説明された。

i) 気候変動と自然外力の増大について

- ・豪雨の増加と少雨の増加：日降水量100mm以上は100年で約25%増加
- ・海面水位の上昇：今後0.26~0.82m上昇する可能性が高い

ii) 国土構造と社会構造の変化について

- ・災害危険地帯の増加：海面上昇でゼロメートル地帯の拡大、海面上昇での海岸浸食：65cmの海面上昇で国内の砂浜面積の82%が喪失、インフラの老朽化や少子高齢化の進行などで社会のレジリエンスが低下。

これらへの対応には、自然外力を低減させる緩和策、及び、防災力を高める適応策の二つのアプローチがある。適応策には、新たな技術を用いた防災施設（ダムの変遷など）の新設、及び社会の防災対応などを挙げられた。特に、社会の防災対応は大きな効果が得られるようで、過去の見附市の事例ではこの対応で自然災害の被害総額を約1/12に低減したという結果が残っている。このことから、私たちの身近な地域防災対策が被害を最小化するためのキーであることを認識させてくれた。

講演者は、我々技術士が脅威を増す自然災害に、より積極的に向きあい（社会技術での関り）、そして、より広く社会との接点をもつことを望まれており、「災害対応では技術士の影が薄い」、「昨今の行政力が低下する中で、技術士がやるべきことがたくさんあります」といった講演者から技術士に向けての熱いメッセージを感じた講演であった。



講演される池田 駿介 氏

交流会

年次大会、講演会に引き続き、恒例の交流会が佐藤副支部長の司会により開催された。高橋支部長、日立パワーソリューションズ大山氏、日本技術士会柴垣理事のご挨拶に引き続き、茨城大学酒井准教授の乾杯で幕を開けた。ご講演をいただいた先生方、来賓の方々を含め約 50 名の参加で、講演者、来賓を中心に賑やかに歓談され、最後に本田前支部長の締めで閉会した。



盛会の交流会

2018 年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会・講演会

2019 年 4 月 6 日(土)、ワークプラザ勝田において、2018 年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会・講演会が 52 名（内、合格者 16 名）の出席を得て開催された。

冒頭では、本田支部長により茨城県支部の位置づけと活動紹介が行われ、県支部活動参加の呼び掛けがあった。

次に講演会では、(株)日立製作所の梶屋伸之氏（技術士（電気電子））、日立金属株の大橋守氏（技術士（経営工学））、(株)日立産業制御ソリューションズの濱口幸雄氏（技術士（情報工学））により技術士第二次試験受験体験の貴重な講演があった。引き続き日本原子力研究開発機構の広田憲亮氏（技術士（金属、機械））より「技術士としてのこの 1 年の振り返り」の発表後、広田氏の司会と前記の講師にて討論会が行われ、今年度受験予定される方に有意義な時間となった。祝賀会では、今年度の合格者の自己紹介とともに今後の抱負などを話していただき、今年度受験予定の方との情報交換など盛大に行われた。



本田前支部長と合格者



祝賀会の様子

茨城県支部新役員紹介

今年は役員選挙があり 4 月に結果が判明しました。また 7 月の日本技術士会統括本部の理事会で県の支部長が選任されました。役員の任期は 6 月の日本技術士会の定時総会から 2 年で、年次大会で紹介されました。

氏名	役 職	氏名	役 職
飯泉 紀子	研修委員会副委員長	鈴木 但義	業務・地域貢献委員長
石田 正浩	広報委員会委員長	高橋 正衛	支部長
伊藤 裕	会計幹事、総務委員長	寺本 和義	会計幹事、研修委員会副委員長
今本 信雄	総務委員会副委員長	堂本 隆	会計
海老根 昭司	事務局次長	本田 永信	
大脇 隆志	副支部長	松井 透	副支部長、県南委員会委員長
小林 守	研修委員会委員長	市毛 修	支部参与
早乙女 弘		岸 敦夫	支部参与
佐藤 剛		松本 宏	支部参与
佐藤 美律子	副支部長、事務局次長	手島 久	会計
鈴木 博之	研修委員会副委員長		

編集後記

- ◆茨城県支部会報第 14 号では、2019 年度年次大会を中心に掲載した。2018 年度の活動実績と 2019 年度の活動計画が報告された。会員の CPD に資する活動、地域社会への貢献活動など、多岐にわたる活動がされている。
- ◆新役員が選出された。広報委員会も委員長交代となった。新体制で頑張っていきたい。
- ◆技術士合格者祝賀会は、昨年同様に多くの合格者の参加を得ている。仲間が増えることはうれしい限りである。
広報委員会：石田 正浩（委員長）、堂本 隆、鈴木 博之、高橋 直樹、早乙女 弘、佐藤 剛、松本 宏
情報提供は、E-mail：ibaraki@engineer.or.jp まで